



平成 27 年 9 月 3 日

各 位

会 社 名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 窪島 肇
(コード番号 2369 : 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 疋田 賢司
(Tel: 03-5439-9691)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○ 開催状況

開催日時 平成27年9月2日 15:30~16:30
開催方法 対面による実開催
開催場所 東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8
東京証券会館9階 第9会議室
説明会資料名 投資家説明会資料

【添付資料】 投資説明会において使用した資料

※説明会の動画を以下のサイトにてご覧頂けます。

<http://vspm.irstreet.com/browse/index.php?code=caPsgbEr/eUXA&pr=mms>

本説明会ビデオをご覧いただく際に、パソコンの利用環境としてはInternet Explorer5.5 以上のブラウザを推奨いたします。推奨ブラウザ以外の環境でご利用の場合には、正常に動作しない可能性がございますのでご了承ください。また、併せて映像再生ソフトとして、Windows Media Player が必要となります。

ご利用のパソコンにソフトがインストールされていない場合は、最新のソフトをインストールしてご利用ください。

以上

株式会社メディビックグループ
2015年12月期 第2四半期決算 説明会

2015年9月2日

MediBic Group

目次

1. 2015年12月期 第2四半期決算 業績
 - ・ハイライト(売上高／損失) 前年同期比
 - ・セグメント別売上高及び損失
2. 2015年12月期 通期業績予測
3. 2015年12月期 上半期 トピックス
4. 2015年12月期 下半期 トピックス
 - ・ウマ幹細胞
 - ・不妊、繁殖障害
 - ・自動培養装置→ロボット開発
5. 2016年以降 展望

1. 2015年12月期 第2四半期決算 業績 ハイライト 前年同期比(売上高/損失)

単位:千円

	第15期 第2四半期連結累計期間 自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日	第16期 第2四半期連結累計期間 自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日
売上高	81,475	47,698
経常損益	△232,240	△261,315
四半期純損益	△258,501	△267,455
四半期包括利益又は包括利益	△252,091	△266,838
純資産額	999,596	753,256
総資産額	1,042,982	806,456

1. 2015年12月期 第2四半期決算 業績 セグメント別 売上高及び損失

単位:千円

セグメント別	売上	損益	売上前年比	前年損益
遺伝子事業	37,014	△52,608	2.5%	△28,156
治験支援事業	9,033	△4,911	△69.5%	3,242
再生医療事業	1,650	△70,853	△62.6%	△70,212

2. 2015年12月期 通期業績予測

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
2015年12月期 業績予想	百万円 313	百万円 △220	百万円 △250	百万円 △256	円 銭 △8.72

3. 2015年12月期 上半期トピックス グループ運営の概要

MediBic Group

株式会社 メディビック



遺伝子事業

株式会社 アニマルステムセル



再生医療事業

株式会社 サイトクオリティ



治験支援事業

株式会社 メディビックファーマ



創薬事業
Glufosfamide

3. 2015年12月期 上半期トピックス

遺伝子事業



遺伝子事業

遺伝子検体管理インフラサービス

検体管理
システム

匿名化
システム

検体
マルチジャケット

遺伝子受託解析



遺伝子検査サービス

CYP2D6
乳癌領域

アルツハイマー
認知症領域

AGA 男性型
脱毛領域

フィラグリン皮膚
保湿領域

お薬・アルコー
ル体質検査

3. 2015年12月期 上半期トピックス

遺伝子検体管理インフラサービス

◆ 当社では公益事業で培った強固な管理インフラを構築しており、フルパッケージでのバンキングが可能です。

検体管理システム

- 公的機関との連携
- GLP準拠、治験対応
- 開発、運営、解析の全フロー対応



匿名化システム

- 二重匿名化
- 耐久性(超低温対応)
- 簡易管理



遺伝子
検体管理
インフラ
サービス

遺伝子受託解析

- 創薬企業、大学、研究機関からの受託実績
- 研究・治験などに個別対応



マルチジャケット

- ICタグでの自動管理
- あらゆる検体容器対応
- 高耐久性



3. 2015年12月期 上半期トピックス 遺伝子検査サービス

抗がん剤の
効果予測

採取



検査



薬の副作用
予測

保管



遺伝性疾患の
診断

病気の
リスク診断

3. 2015年12月期 上半期トピックス 遺伝子検査サービス

MediBic Group

- 創薬支援
- 抗がん剤服用前の効果／副作用予測
- 治療や服用への貢献
- 遺伝子タイプに基づく疾患発症リスク

論文やエビデンス
をもとにした
最適医療の実現

遺伝要因

新規参入IT企業等

- 遺伝子タイプに基づく疾患発症リスク
- 遺伝子タイプに基づく体質の特徴
- 状態に合わせた生活改善サポート
- 食生活、運動のアドバイス

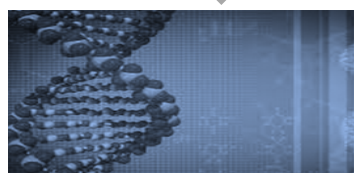
環境要因

3. 2015年12月期 上半期トピックス 遺伝子検査サービス

収集・蓄積・
活用するデータ



収集方法



遺伝子検査

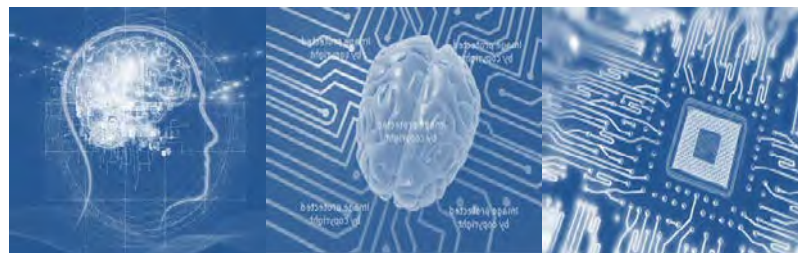


健康診断



デバイス

解析手法
と
実現社会



新たな解析手法

最適医療
の社会

3. 2015年12月期 上半期トピックス 創薬事業の現状

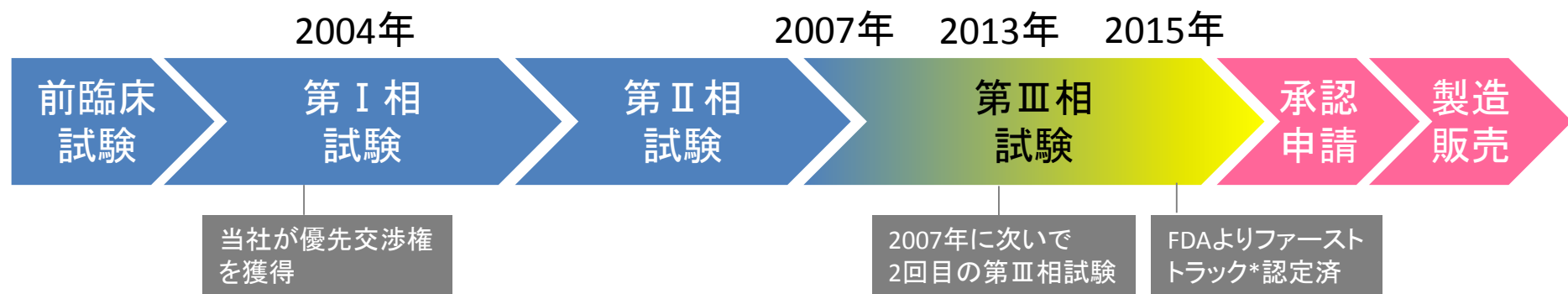
【対象症例】 化学療法後に再発、または難治性膵臓がん患者

【目標症例数】 480人(80サイトの開設が目標)

【試験デザイン】 無作為化(ランダム)非盲検試験

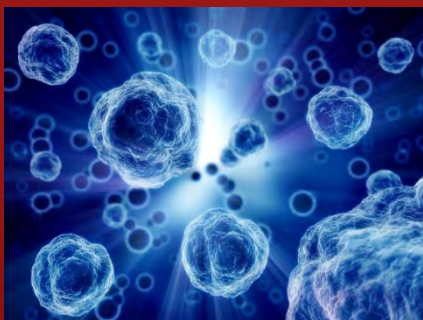
エライゾン社は、米国食品医薬局(FDA)とSPA(Special Protocol Assessment)協定を締結しており、試験完了後に新薬承認申請をFDAに提出予定。

開発スケジュール(米国)



*: 完治が難しい疾患に対し、高い治療効果が期待できそうな新薬をFDAが優先的に審査する制度。

3. 2015年12月期 上半期トピックス 再生医療事業



再生医療事業

培養施設・インフラサービス

細胞培養の受託生産

自動培養装置の開発・販売

細胞培養施設的设计・構築・運用



研究開発・臨床サービス

細胞製剤の臨床開発・治験

特許を活用した、受託研究

3. 2015年12月期 上半期トピックス

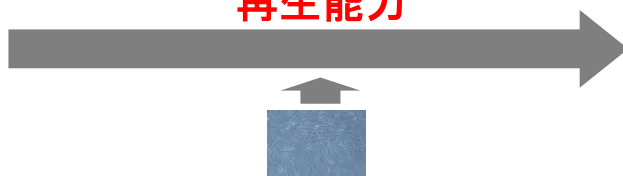
幹細胞療法

ヒトや動物は、骨折や傷を受けた場合、しばらくすると自力で修復する**再生能力**を持っています。

この再生能力に着目し、障害に陥った組織・臓器の再生及び機能の修復を目指す医療のことを**再生医療**といいます。再生医療では、体内の様々な細胞に変化する可能性を持った**幹細胞**を用います。



再生能力



再生医療への応用が期待されている主な**幹細胞**

体性幹細胞

- 骨髄や脂肪組織内に存在する「間葉系幹細胞」は骨・軟骨・血管などの組織に分化が可能である。
- 既に臨床研究で用いられている。

人工多能性幹(iPS)細胞

- ヒトの皮膚細胞に遺伝子操作加え、ES細胞同様に分化能力を獲得した万能細胞。
- 話題性は高いが、細胞樹立方法は現在も改良が続けられており、**基礎研究段階**。

胚性幹(ES)細胞

- 理論上は様々な細胞への分化が可能である。
- 受精卵を用いるため、**倫理上の問題**が付きまとい、臨床応用は未だ行われていない。

3. 2015年12月期 上半期トピックス 犬における治験の現状

脊髄損傷犬への他家 脂肪由来 間葉系幹細胞投与

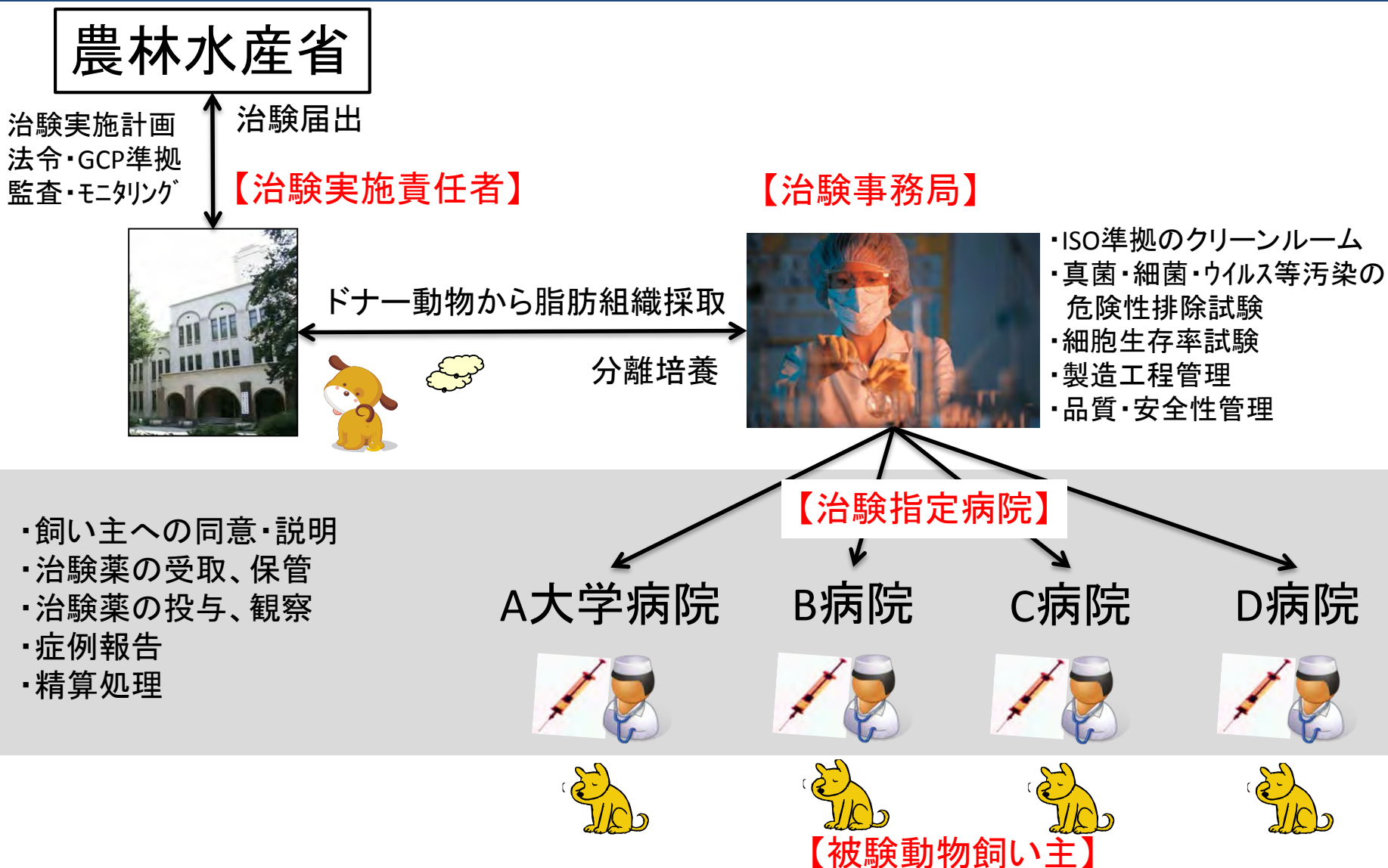
幹細胞 投与前

幹細胞 投与4週間後



動画

3. 2015年12月期 上半期トピックス 犬における治験の現状



3. 2015年12月期 上半期トピックス 犬における治験の現状



3. 2015年12月期 上半期トピックス 犬における治験の現状

人為作製疾患モデル

遺伝子組換え技術等の応用により、ヒト疾患類似モデルを作成。



- ✓ 発症までに数年～数十年以上かかる複雑な病気発症のプロセスを模倣しているかは疑わしい。(モデルマウスで有効性があってもヒトで成功するのは数パーセント)

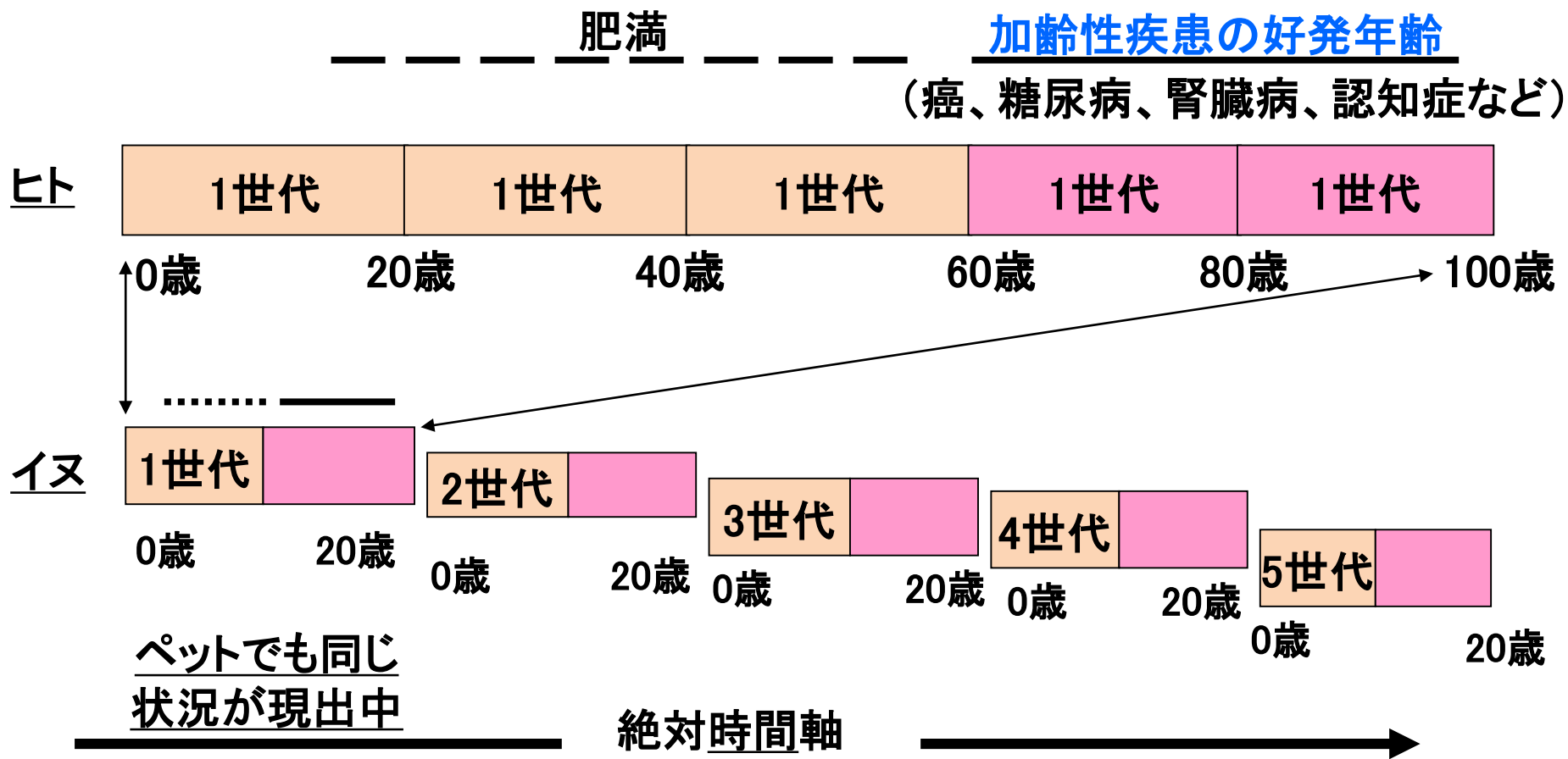
自然発生疾患モデル

人と生活を営み、生活習慣や加齢により、自然に疾患を発症し、動物病院に通院している。



- ✓ Dog Year(ヒトの5倍～7倍のライフサイクル)で、治療評価期間も短く、スピーディーな開発が可能。
- ✓ 人と同様の診断・治療・手技にて治験の実施が可能

3. 2015年12月期 上半期トピックス 犬における治験の現状



ヒトに比ベイヌでは約5倍の速さで薬剤の有効性や副作用の評価が可能

3. 2015年12月期 上半期トピックス (株)フォーシス アンド カンパニーとの業務提携

2015年5月28日
業務提携



■ 技術開発

- ✓ 再生医療技術、遺伝子技術の提供

■ 店舗・顧客営業

- ✓ アンチ・エイジング、美容事業
- ✓ 再生医療事業



エンドユーザー

4. 2015年12月期 下半期トピックス

馬における再生医療



2014年11月25日
損傷率6%; 屈腱炎

9000万個の幹細胞を投与

動画

治療開始8ヶ月後の2015年7月に
レース復帰; 優勝



4. 2015年12月期 下半期トピックス 馬における再生医療

ウォブラー症候群

2014年12月27日



2015年3月21日



動画

4. 2015年12月期 下半期トピックス 馬 再生医療の事業モデル

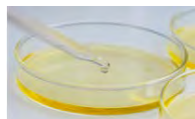
馬幹細胞の分離・培養



ドナー競走馬



脂肪組織の採取



培養



幹細胞の
ストック



品質試験および保管

凍結搬送



冷凍保存



エンドユーザー

投与対象の馬



幹細胞投与



注射器による
デリバリー



海外パートナー

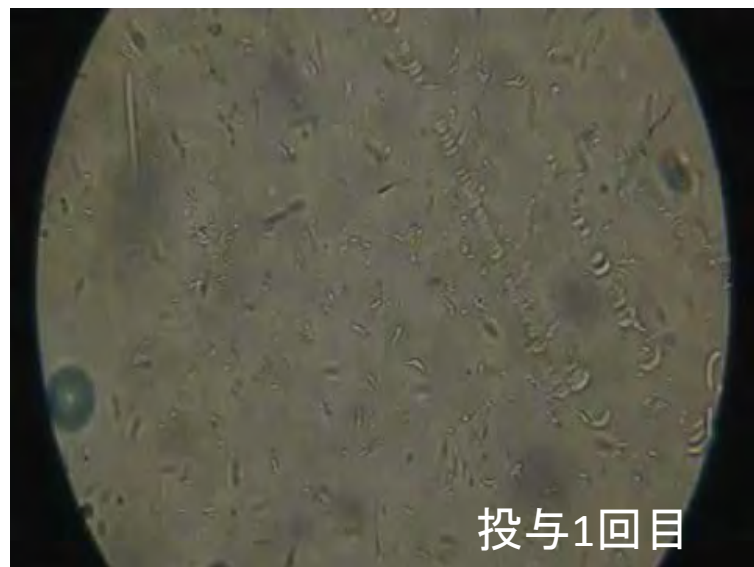
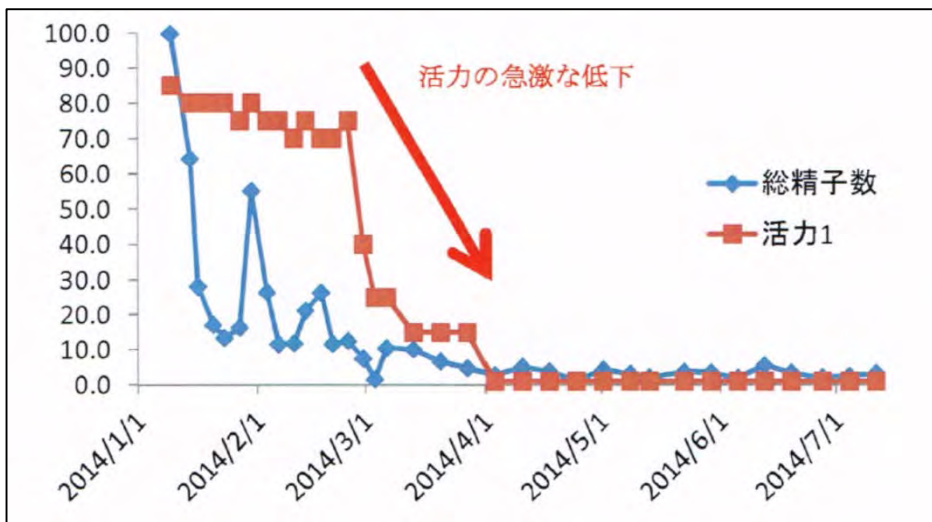


品質試験および
発送作業



解凍

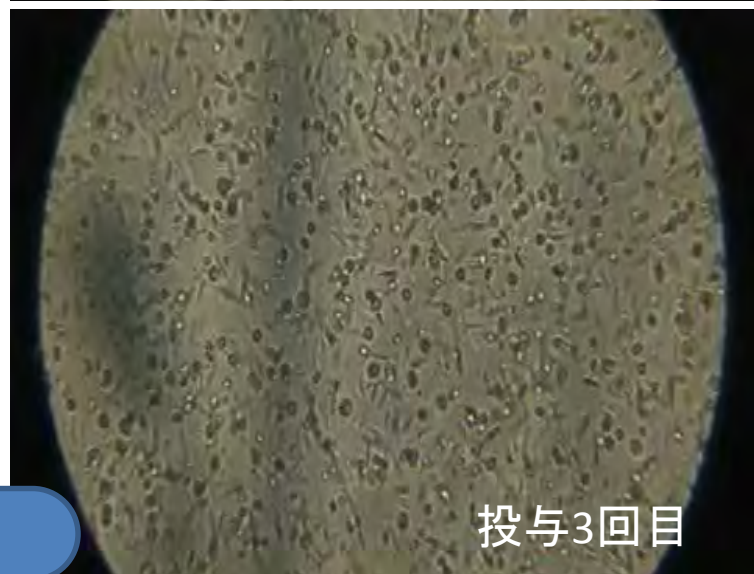
4. 2015年12月期 下半期トピックス 不妊・繁殖障害 再生医療



投与1回目



動画



投与3回目

4. 2015年12月期 下半期トピックス

不妊・繁殖障害 再生医療

加齢性
不妊動物

幹細胞投与
による治療効果

不妊・繁殖障害における
新規治療法の開発

加齢による雄牛

- ・無精子症
- ・精子減少症
- ・精子不動症
- ・精子変形症



【現在実証中】
精子運動活性及
び精子生産能力
の向上方法

加齢による雌牛

- ・習慣性流産
- ・卵巣萎縮
- ・微発情



【現在実証中】
・発情周期改善
・2/3頭が授精済
・卵巣萎縮改善

授精能の確認



妊娠の確認



出産の確認



ヒト不妊治療での臨床研究

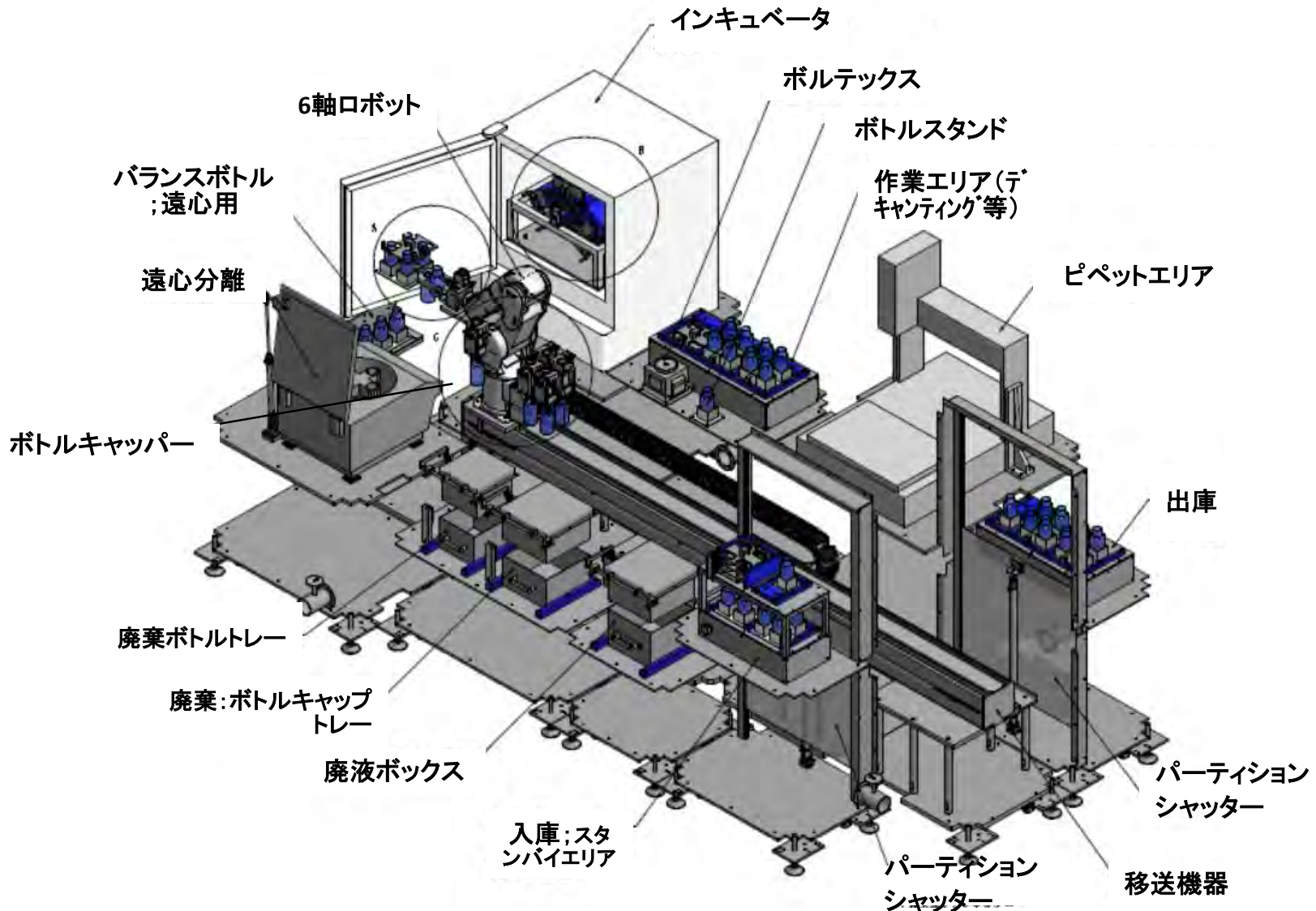
4. 2015年12月期 下半期トピックス 自動培養装置のコンセプト

- 培地交換、継代培養、ピペッティング、遠心分離などの面倒な作業は、スケジューリングに基づき、全て自動的に実施。
- タブレットPCでの簡易操作が可能。

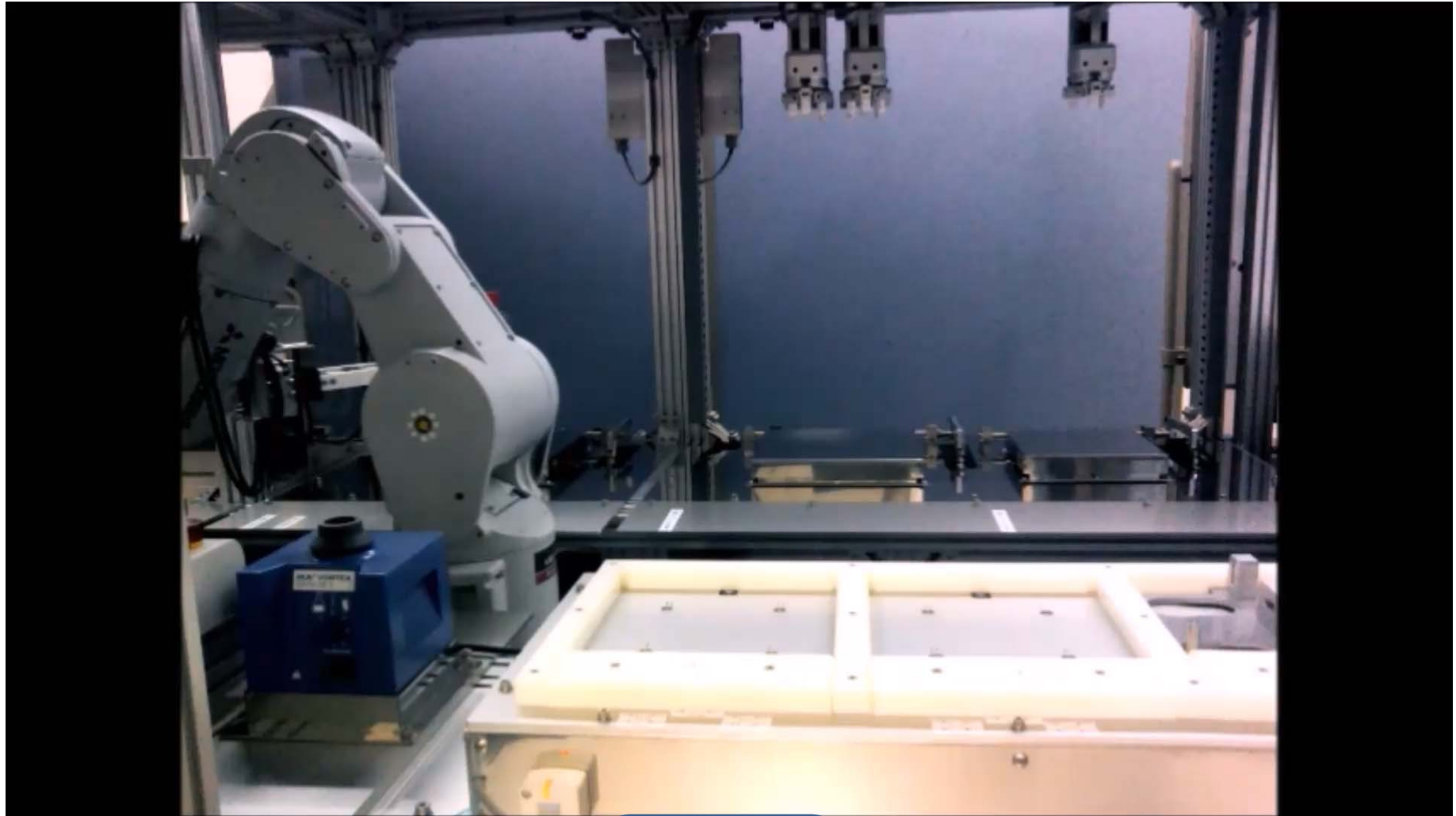


4. 2015年12月期 下半期トピックス

自動培養装置 動作機構



4. 2015年12月期 下半期トピックス 自動培養装置 コンセプト機



動画

4. 2015年12月期 下半期トピックス

自動培養 ロボットの開発

■ (株)デンソーウェーブ社と共同でNEDO助成事業に採択



国立研究開発法人
新エネルギー・産業技術総合開発機構

お問い合わせ窓口 | ウェブサイトの使い方 | サイトマップ | English

文字サイズ変更 小 **中** 大 | サイト内検索

ホーム | 最近の動き | **ニュース** | 公募・調達 | イベント | 特集記事

NEDOについて
事業一覧
NEDOライブラリ
お問い合わせ窓口一覧(公募・制度・資料等)

ニュース
① ニュースリリース 一覧
② NEDOからのお知らせ 一覧

ロボット分野の情報

- 立ち入り困難な崩落現場で活躍するロボットの実証実験を開始
- ユーザーニーズと市場化出口を明確にしたロボット活用技術を開発へ
- 次世代人工知能技術の研究開発に新たに着手
- 革新的ロボット要素技術の研究開発に新たに着手
- 府省の枠を越えてSIPインフラモニタリングシステム現場実証事業を開始

ホーム > ニュース > ニュースリリース 一覧 > ユーザーニーズと市場...

News Release

ユーザーニーズと市場化出口を明確にしたロボット活用技術を開発へ

—ロボットの導入業種と分野の拡大を目指す—

2015年8月12日

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
理事長 古川一夫

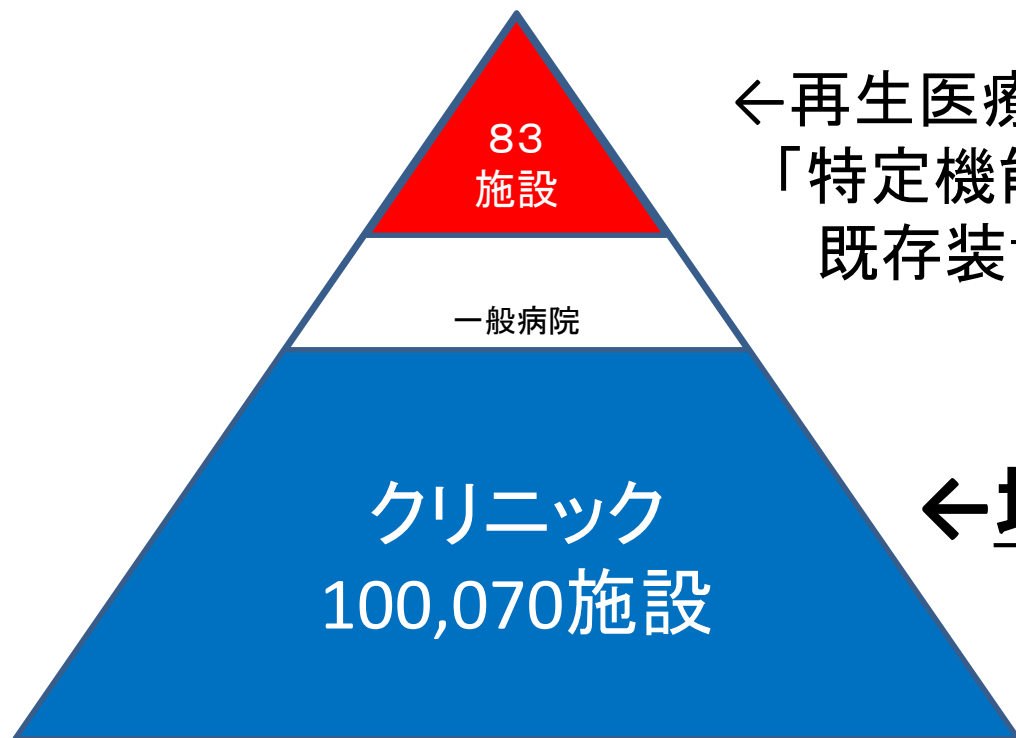
NEDOは、ロボットの活用・普及の促進に向けて、ユーザーニーズと市場化出口を明確にしたロボット活用技術開発を実施します。

本事業では、ものづくり分野およびサービス分野を対象としたロボット活用技術を開発することにより、新たにロボットを導入する業種・分野、工程の拡大を図るとともに、システムインテグレータ(Sier)との協業やロボット活用事例の周知も併せて推進し、ロボットの市場規模の増大を目指します。

1. 概要

現在、少子高齢化に伴う人手不足やサービス部門の生産性の向上という日本が抱える課題の解決の切り札としてロボットが注目されており、日本の成長産業として育成するためにも、市場におけるロボットの活用・普及を促進するための技術開発の必要性が高まっています。また、ロボット革命実現会議^{※1}においてとりまとめられ、2015年2月に日本経済再生本部決定された「ロボット新戦略」^{※2}では、技術開発や規制緩和により2020年までにロボット市場を製造分野で現在の2倍、サービスなどの非製造分野で20倍に拡大するといった数値目標が設定されるとともに、ロボット革命の実現に向けた政策が示されています。

4. 2015年12月期 下半期トピックス 自動培養ロボットのターゲット市場

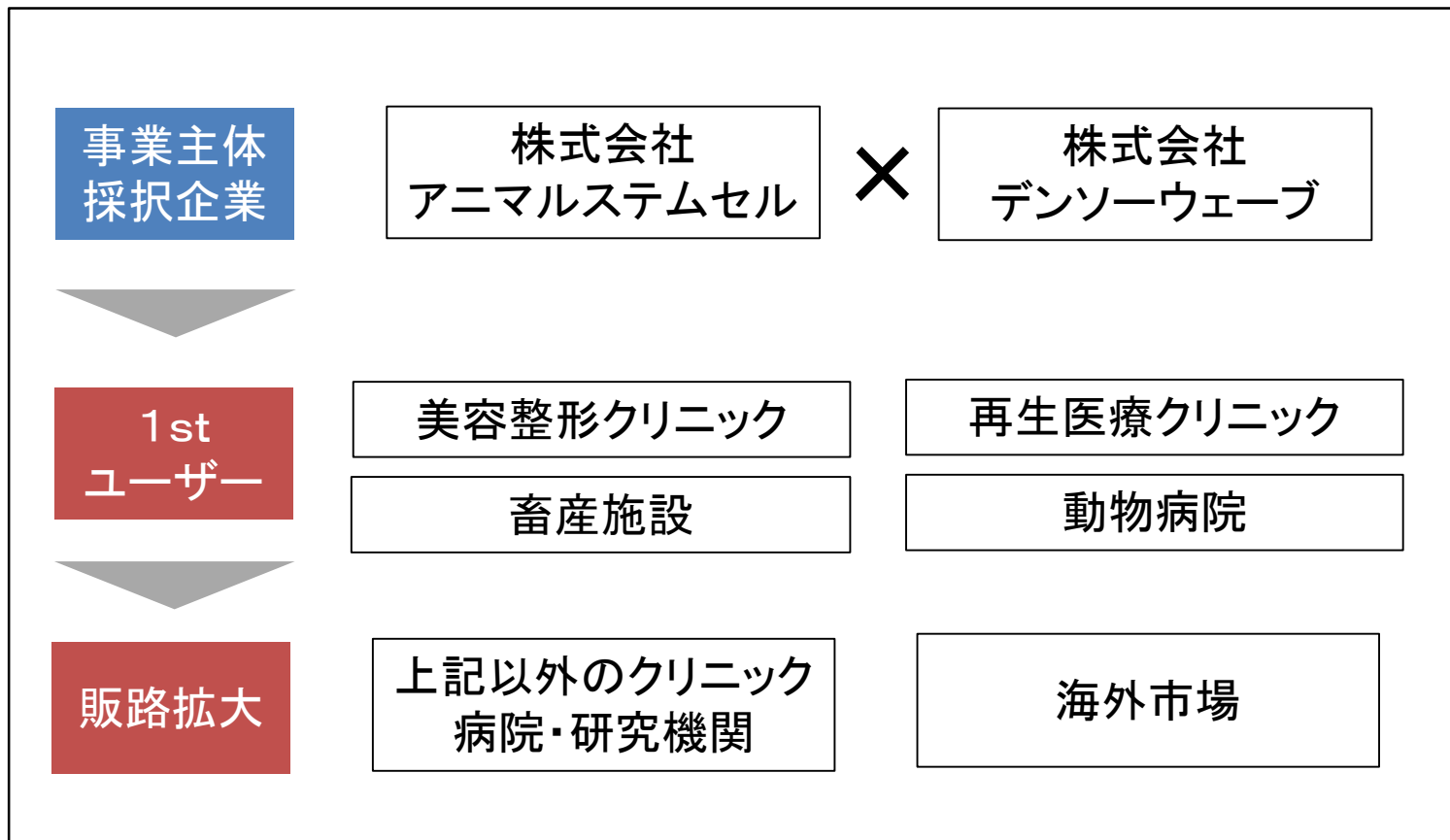


←再生医療など先進医療を提供する
「特定機能病院」
既存装置のターゲット市場

←培養ロボットシステム
のターゲット市場

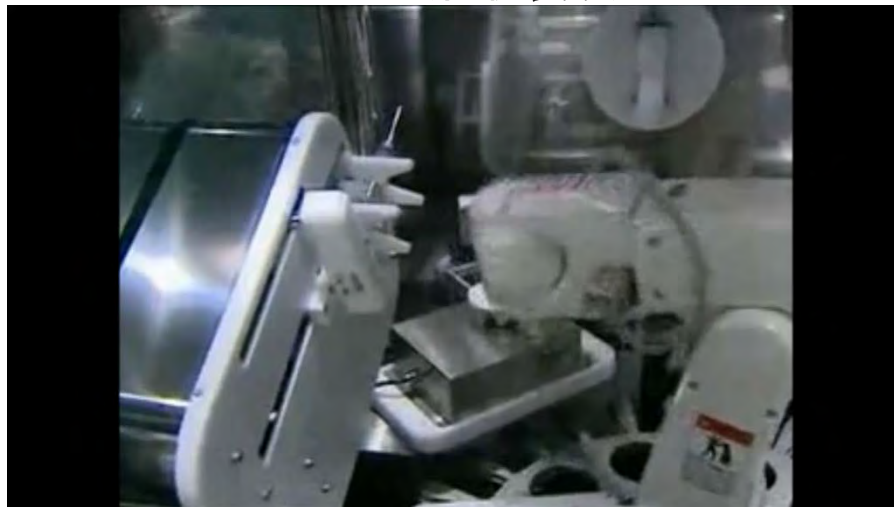
4. 2015年12月期 下半期トピックス

自動培養ロボットの事業形態



4. 2015年12月期 下半期トピックス 自動培養ロボットの動作機構

シリンジへの溶液装填



動画

キャップの開閉

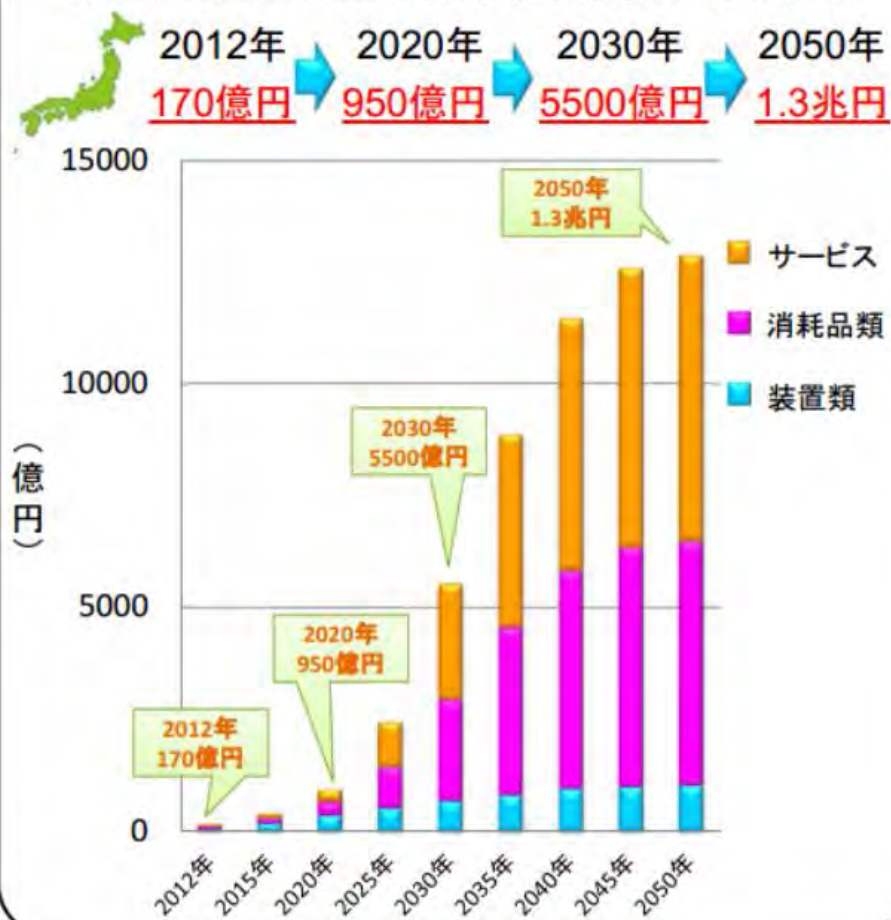


遠隔操作

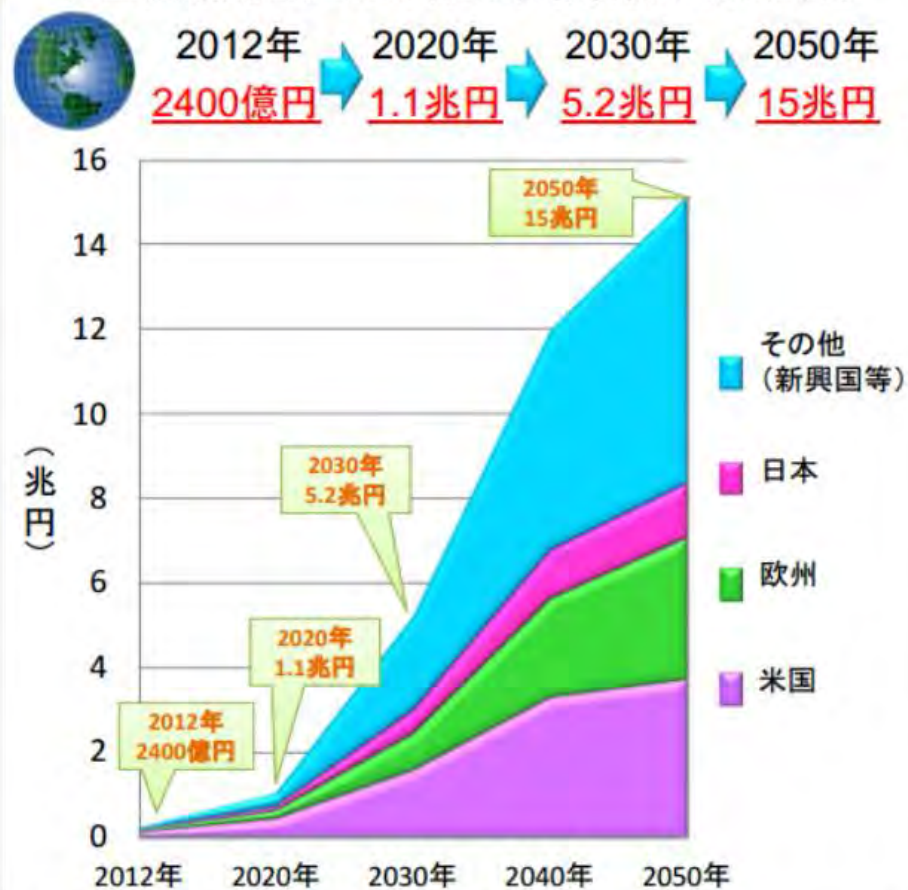


4. 2015年12月期 下半期トピックス 再生医療周辺事業の市場規模

再生医療周辺産業の将来市場規模予測(国内)



再生医療周辺産業の将来市場規模予測(世界)

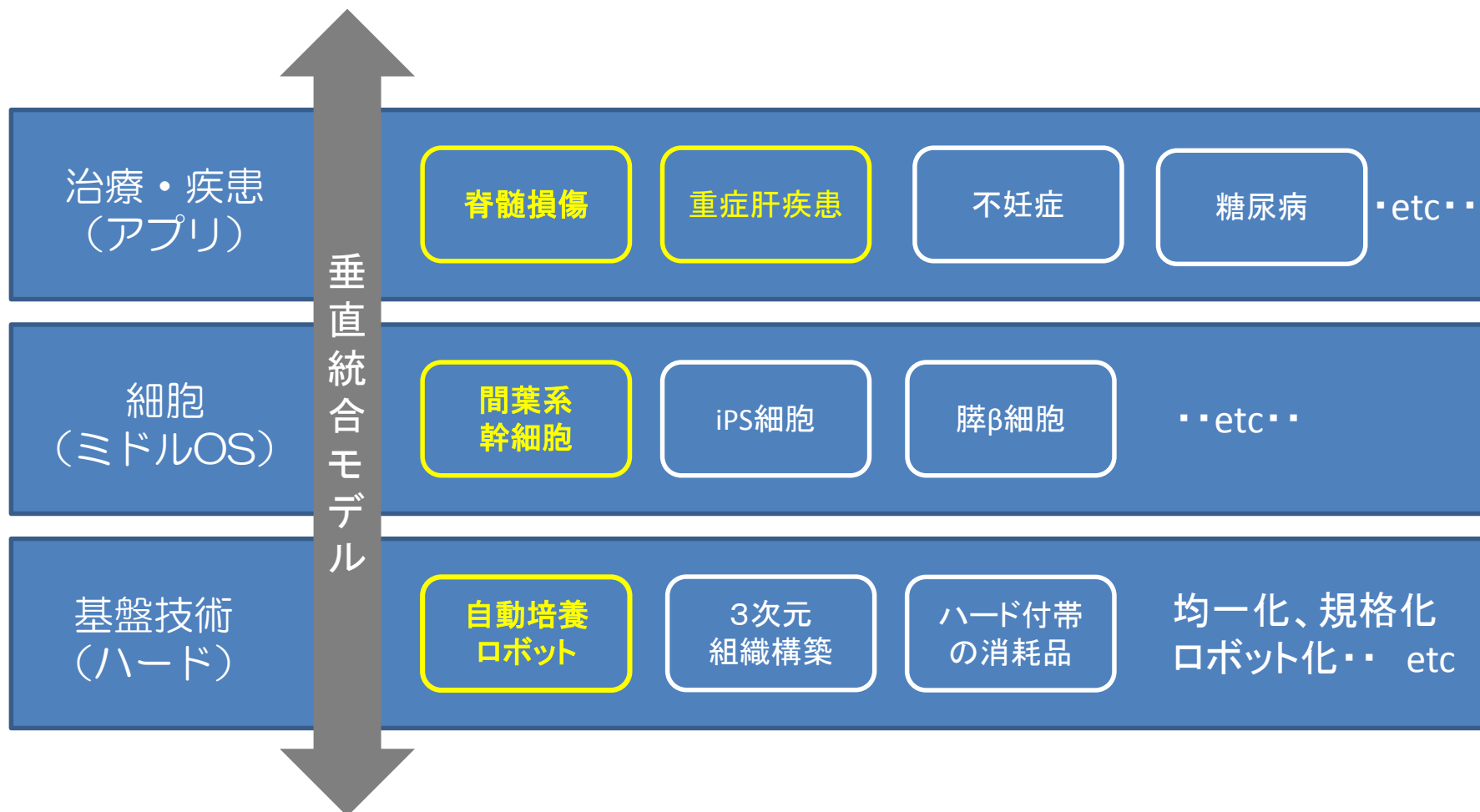


出典: 経済産業省2013

5. 2016年以降の展望

メディビックグループの再生医療戦略

- ハードからアプリまでを自社で提供する再生医療の垂直統合ビジネスモデルを早期に確立する。



5. 2016年以降の展望 事業パイプライン

	2015年	2016年	2017年	2018年
I. 遺伝子事業	<p>事業再定義</p> <p>営業基盤の強化・業務提携</p>	<p>バイオバンクシナジー</p>	<p>成長路線へのシフト</p>	
II. 再生医療事業	<p>基盤技術・特許強化</p> <p>販売網の構築</p> <p>製造ライン構築</p>		<p>NEDOロボット開発事業</p> <p>成長路線へのシフト</p>	
III. 治験支援事業	<p>事業再定義</p>			
IV. 創薬事業	<p>Ph. III (米国)</p> <p>アジア地域での支援およびリスク管理の強化</p>			

MediBic Group